

音のバランスが
抜群に良い!

総合 2位

クラシック部門 1位

ゼロオーディオ
ZH-DX200-CT

SPEC: ドライバーユニット: Φ 5.78mm
再生周波数帯域: 8 ~ 24,000Hz
インピーダンス: 16 Ω / コード長: 1.2m

バランス型
カナル型
カラー 1色

CLASSICAL ACOUSTIC

識者 eye

サウンドプロデューサー 大澤大輔さん

ピュアな音への考え
抜かれたコンパクトボディ

高強度で制振性に優れたカーボン・ファイバーと、イヤチップ装着部の削り出しアルミで強化した「コンボジットハウジング」を採用。本体の中心には平織模様が美しいリリアルカーボンを配することで、共鳴振動を抑えてスピーカーの性能を余すところなく発揮させた。高・低音域のレンジ感の広さとキレの良いサウンドを実現する。重さは3.2gの軽量で、スタイリッシュな見た目も好印象なイヤホンだ。

[FRONT] [BACK] [LEFT] [RIGHT]

高音	中音の解像度	低音	装着感	遮音性	表現力	クリアー	価格
45	46	40	41	46	44.5	48	45.5
A	A	B	B	A	B	A	A

合計 356

コンテストでも
高評価な製品!

CHECK 02

小型で高性能なドライバー

中低音域の豊かな表情を得意とする5.78mm 超小型マイクロドライバーユニットを搭載。タイトでコンパクトなフォルムが美しい

CHECK 01

良音に必須な上質ケーブル

酸化物を含まない99.95%以上の高純度銅のOFC（無酸素銅線）を使用したフレキシブルケーブル。伝送漏れが少なく純粋な音源伝送を可能にする

この価格でこの音!

高音・低音ともに全ての音が聴こえ、バランスがダントツに良い! 音の解像度も高いし遮音性も十分。

個人的には1位

ピアニスト・作曲家 磨谷研人さん

ゼロオーディオが堂々の1,2位!

満場一致で決まった堂々のワンツーフィニッシュ。3位とは20点以上の差だ。低音域から高音域まで変なギミックや誇張がなく、すべての周波数がきれいに聴こえ、音の解像度も高い極上品が揃った。

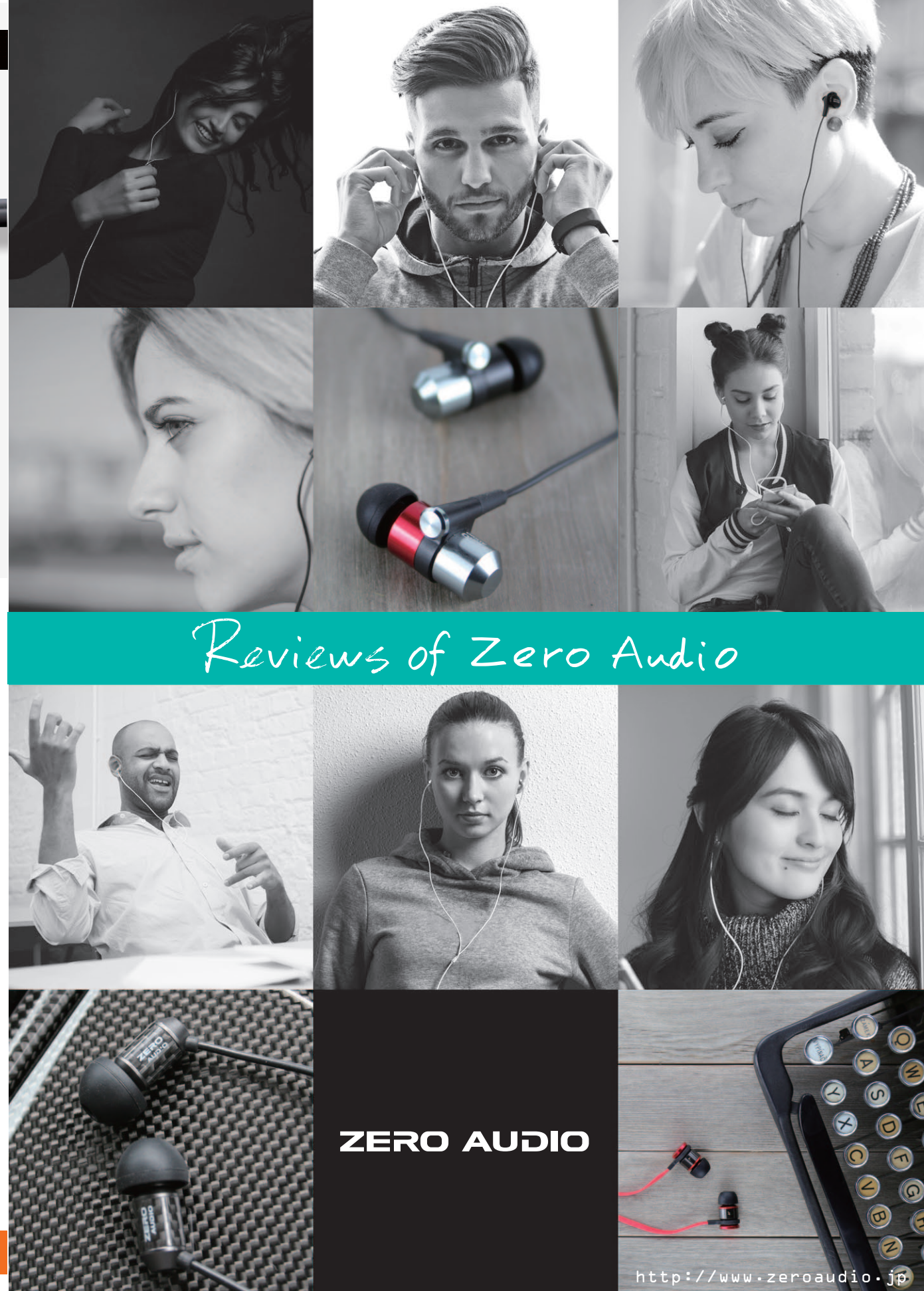
音楽そのものがピュアに聴ける

ゼロオーディオだけレベルが違う!

ありのまま聴ける
ギミックのない音が◎

総合1位と2位のゼロオーディオの素晴らしさはすべての音がバランス良く聴こえるうえ、低コストであることが飛び抜けた高い評価につながった。両製品は甲乙つけがたいが違いは、製品のテイストにある。と識者は話す。それはジャンル別評価に表れた。ZHDX210CB（1位）は音の情報量が多いポップスでトップの座に。その量を扱えるパワーを持ったドライバーのなせる技からだ。ZHDX200-CT（2位）はクラシックのナンバーワン。小型ドライバーのため、低音域のさらに低い音域「Sub Low」の届きが少ない。しかし、クラシックにはこの音域がほとんどないため、音をそのまま聴くことができたのだ。好きな曲でイヤホンを使い分けることは、音楽タイムをより充実させる近道と実感した。

識者を唸らせた極上イヤホンに、座談会では製作会社について知りたいという声まで上がった。調べてみると、ゼロオーディオの生みの親、協和ハーモネット株式会社が電線などの事業が主流だが、オーディオ好きな上層部の声により新事業部を立ち上げ、こまかなししの最高品質の音作りに取り組んでいたのだ。音を追求する飽くなき探求が、スーパースターの製品を生み出した背景だった。



Reviews of Zero Audio

ZERO AUDIO

<http://www.zeroaudio.jp>

グルーヴィーな重低音も、ハイレゾの臨場感も

ゼロオーディオが

洗練されたフォルムとプロが認めた高音質。ユーザーに価格以上の価値を提供する
日本が誇る気鋭のブランド、ゼロオーディオから重低音とハイレゾ再生を追求した新作が登場した。

文／中林直樹

どっしりとした低域表現のZERO BASS

実直でクセのないサウンドと、洗練されたフォルムとが調和するゼロオーディオの製品たち。しかも、手の届きやすい価格を追求していることも特長で、コストパフォーマンスに長けたイヤホンブランドとして知られている。ただ、気をつけてほしいのは、このコストという言葉。単に低価格であることを示しているのではない。ここではプライスに由来する印象を大きく凌駕するクオリティを誇る、という本来の意味で捉えてほしい。

そんなゼロオーディオに新たなシリーズが登場した。ZERO BASS(ゼロベース)という、名称のごとく、低音の生き生きとした再生にフォーカスを当てた3機種だ。

最上位モデルの「ZB-03」はダイナミック型の「ファインチューンド・ドライバー」を搭載したハイレゾ対応モデルだ。不要な響きを排除する削り出しフルアルミボディを採用。その柔らかな曲線をアピールするかのように表面には上品な光沢を湛えるベキン

グフィニッシュを施している。さらにボディのリア部分にはパンチングメタルによる空気孔を設けた。「バスブーストポート」と名付けられたこの機構によって、自然で豊かな低音を生み出す。

試聴してみると、開発意図がすぐにわかった。ロックではドラムやベースといったリズムセクションが太く、ラウドに鳴り響く。小型ながら、まるでサブウーファーが搭載されているかのような大迫力。音楽が極めてエネルギッシュに表現される。「ZB-02」および「ZB-01」はともに、ダイナミック型の「パワーチューンド・ドライバー」をマウント。ハウジングにアルミを採用している点、低域の迫力と解像感を追求した「フルワイドシリンダー構造」、高純度 OFC(無酸素銅)を線材にしたケーブルも両機共通の仕様となっている。異なるのはケーブルの配置と形状だ。サウンドは ZB-03 のテイストを受け継ぐものだ。どっしりとした低域が、音楽に深みを与えている。また、ロックはもちろん、クラシックの弦楽器、ジャズのサックスなども滑らかに描き出してくれたのが印象的だった。

さらなる高みへ

力強さと自然な中高域のCARBO MEZZO

さらに同社が得意とするカーボンボディの CARBO シリーズにも新たなモデル「CARBO MEZZO」が加わった。ダイナミック型の「ファインチューンド・ドライバー」を搭載。ボディにはカーボンと削り出しアルミとの二重制振構造による「コンボジットハウジング」を、リア部にはパンチングメタルをまとった「バスブーストポート」を採用した。これらによってシリーズ初のハイレゾ仕様を獲得。特長的だったのは、力強い低域と、自然な中高域が両立していること。ドラムやベースの存在感を十分に伝えながら、決して荒れたり、ボーカルを邪魔したりすることはなかった。

今回紹介した4モデルは低域の再生がひとつのキーポイントだ。ただ、派手にならず、あくまでも上品で音楽全体と混じり合うようにして耳に届けられる。そこにゼロオーディオの丁寧なエンジニアリングを感じざるを得なかった。

》CARBO シリーズ

カーボンファイバーと削り出しアルミニウムによる2重制振構造の複合強化ボディを採用。それにより「ファインチューンド・ドライバー」の能力を引き出す、プレミアムイヤホンだ。



精悍なパンチングメタルをまとった「バスブーストポート」を配置するなど、臨場感あふれるワイドレンジ再生を目指した逸品。

VGP
2017
受賞
インナーイヤー型ヘッドホン
(5000円以上1万円未満)

》ZERO BASS シリーズ

ヘビーかつタイトで良質な重低音を叩き出す、ベースサウンドシリーズ。ボディにアルミを採用、ヘッドホンクリップを同梱するなど、価格以上の価値を実感させてくれる逸品だ。



「シャープな重低音」を目指したイヤホン。フラット形状のケーブルをオフセットレイアウトしたデザインが特長。



ケーブルをハウジングの側面に沿わせてレイアウトしたデザインが特長。同じく「シャープな重低音」を特長とする。



「バスブーストポート」による、さらにグルーヴィーな重低音が特長。艶やかなフルアルミボディを纏う、高品位モデルだ。

ゼロオーディオ ZB-01

VGP
2017
受賞

インナーイヤー型ヘッドホン
(5000円未満)

¥OPEN ▶投票 No.073

SPEC ●型式:ダイナミック型 ●再生周波数帯域:6~39,000Hz ●インピーダンス:16Ω ●質量:5.9g(ケーブル含まず)

ゼロオーディオ ZB-02

VGP
2017
受賞

インナーイヤー型ヘッドホン
(5000円未満)

¥OPEN ▶投票 No.074

SPEC ●型式:ダイナミック型 ●再生周波数帯域:6~39,000Hz ●インピーダンス:16Ω ●質量:4.7g(ケーブル含まず)

ゼロオーディオ ZB-03

Hi-Res
AUDIO

VGP
2017
受賞

インナーイヤー型ヘッドホン
(5000円未満)

¥OPEN ▶投票 No.075

SPEC ●型式:ダイナミック型 ●再生周波数帯域:6~40,000Hz ●インピーダンス:16Ω ●質量:4.5g(ケーブル含まず)

TIPS

ゼロオーディオとは?

日本最大級のオーディオビジュアルアワードVGPでも、プロの評論家から絶大な支持を集める新進気鋭のジャパニーズブランド。ブランドネームには、「オーディオをゼロから本気ではじめる」という決意表明が込められており、その名に違わぬシッブルながら品質を重視した商品づくりが特長だ。

VGP2016受賞! エントリーした ゼロオーディオ、その

評論家および販売店の投票による厳正な審査を経て、決定されるオーディオビジュアルアワード「VGP」。
同賞において、エントリーをした全部門で受賞の栄誉を勝ち取った、注目すべき気鋭のジャパニーズブランドがある。
それがゼロオーディオだ。受賞の背景と、注目のハイレゾ対応イヤホン「DUOZA」の魅力を、審査員を務める野村ケンジ氏が語る。

文／野村ケンジ（オーディオ評論家） 写真／阿部良寛



ZERO AUDIO DUOZA



ダイナミック型×2
(ZH-DWX10) ¥OPEN ▶投票 No.115

SPEC ●型式：ダイナミック型（デュアル構成）●再生周波数特性：7～40,000Hz ●インピーダンス：20Ω ●ケーブルの長さ：1.2m ●質量：8.3g（ケーブル含まず） ●付属品：シリコンイヤークップ（S/M/L）、ポーチ



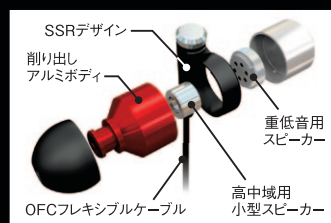
受賞

インナーイヤー型ヘッドホン
1万円以上3万円未満部門

CHECK!

デュアル構成と独自機構で 高音質とフィット感を追求

デュアル・ダイナミックドライバーを搭載。中高域を担う前方のユニットと、低域を担う後方のユニットのふたつを同軸上にタンデムマウントすることにより、繊細かつ重厚なサウンドを実現する。フィット感を高めるために、ケーブルを側面にレイアウトした「SSRデザイン」もユニークだ



5部門すべてを制覇 揺るぎない価値

ダイナミックな低域、凜とした高域

2010年に誕生した国産イヤホンブランド「ZERO AUDIO（ゼロオーディオ）」。金属やカーボン素材を使用しつつ丁寧な仕上げがなされた筐体デザインに加え、バランスド・アーモチュア・ドライバー（BA）などの高級ユニットを積極的に採用。国内メーカーならではの丁寧なもののづくりも加わり、良質な製品を作り上げつつも、同時に、それらを衝撃的な（といいくなるくらい）プライスタグで提供。圧倒的なコストパフォーマンスの高さと、そして何よりも良質なサウンドクオリティによって、いまや多くのヘッドホンユーザーから圧倒的な支持と厚い信頼を得ている。なお、筆者が審査員を務めるオーディオビジュアルアワード、VGP2016では、エントリーした5モデルすべてが受賞の栄誉を勝ち取っている。そのことから安定した実力が窺い知れるだろう。

現在、ゼロオーディオのラインアップは、カーボン製ボディシェルにフルレンジBAドライバーを2基搭載したハイクラスの（といっても直販価格1万円台に収まっていたりするのだが）「CARBO DOPPIO」こと「ZH-BX700-CD」から、小口径ダイナミック型ドライバーを採用するエントリークラス（といってもリアルカーボン筐体を採用していたりするのだが）の「CARBO TENORE」「ZH-DX200-CT」まで、数モデルを取り揃えている。

どれもゼロオーディオらしい、良好なクオリティと嬉しいコストパフォーマンスを併せ持つ良質な製品ばかりだが、そんなラインアップのなかに、これまでの製品とは異なったコンセプトを持つアイテムが誕生した。それが「DUOZA」シリーズだ。

アルミ削り出しのボディに口径の異なる2基のダイナミック型ドライバーを搭載。7Hz～40,000Hzというワイドレンジ再生を実現することで、同ブランド製品初の「ハイレゾ対応」を謳っている。

艶消しブラックとルビーレッド、ひと目で左右がわかるカラーコーディネイトが施された本体は、オールアルミ製に加えて丁寧なフィニッシュが施されており、確かな上質感を持ち合わせている。ボディの剛性の高さは、音質にも寄与している。装着性にもこだわりが見てとれる。ケーブルを外側に配置するSSR(Side Strain Relief)デザインは、3Dプリント技術を駆使してサンプリング検証をおこない、この形状に辿り着いたのだという。

いっぽう、肝心のサウンドもなかなかのもの。抜けのよいダイナミックな表現の低域と、凜とした高域によって、フォーカス感の高いサウンドが楽しめる。ゼロオーディオらしいクオリティの高さと豊かな表現力を確保しつつも、どこことなく親しみやすさを感じる、馴染みのよいサウンドだ。価格も含め、注目の製品といえるだろう。

LINEUP

そのほかVGPを獲得した秀作イヤホン

BA型×2
ZH-BX700-CD 
¥OPEN ▶投票 No.116 受賞
通称「CARBO DOPPIO」。デュアルBAドライバーを搭載。真鍮削り出しノズル、カーボン+真鍮+アルミボディなど、厳選パーツを駆使した一品。インナーイヤー型ヘッドホン1万円以上3万円未満部門で受賞。

ダイナミック型×2
ZH-DX210-CB 
¥OPEN ▶投票 No.118 受賞
通称「CARBO BASSO」。ヘビーな重低音サウンドを目指して、8.5mmドライバーとカーボン+アルミボディを採用。インナーイヤー型ヘッドホン5000円未満部門で受賞。

BA型×1
ZH-BX510-CS 
¥OPEN ▶投票 No.117 受賞
通称「CARBO SINGOLO」。小型BAドライバー1基でコンパクトなボディを実現。こちらも真鍮削り出しノズル、カーボン+真鍮+アルミボディを採用。インナーイヤー型ヘッドホン1万円以上3万円未満部門で受賞。

ダイナミック型×1
ZH-DX200-CT 
¥OPEN ▶投票 No.119 受賞
通称「CARBO TENORE」。カーボン+アルミボディと低音重視の音質傾向はそのままに、5.78mmの小型ドライバーとすることで、小型&軽量化を実現。インナーイヤー型ヘッドホン5000円未満部門で受賞。

イヤホン
新時代

ゼロオーディオがワンツーフィニッシュ!

実力は2万円クラス

高音	中音の解像度	低音	装着感	遮音性	表現力	クリアー	価格
46	45.5	47	44	42	48	48	49.5
A	A	A	B	B	A	A	A

合計
370



全項目バランスよく高得点な優等生
「これほどよく聴こえるとは!」。識者の予想をはるかに上回り、すべての項目で高得点を誇ったゼロオーディオ。思わぬ掘り出しものとなった。その後、取材スタッフがこぞ買って買ったのは言うまでもない。



CHECK 03

フレキシブルケーブル
電気信号がスムーズで、ピュアな音源伝送を可能にするOFC（無酸素銅線）を使用した、フレキシブルケーブル。長さも十分



CHECK 04

ストレスフリーの軽さ
長時間使用しても疲れがたまりにくい軽さ。質量4.8g（コード除く）は、付けていることを忘れてしまうほど



CHECK 01

性能を引き出すボディ
軽量・高強度で制振性に優れたカーボン・ファイバーと削り出しアルミニウムの複合強化ボディが不要な共振振動を抑制



CHECK 02

ドライバーユニット
力強いフォルムから臨場感ある音を演出。豊かな重低音と澄んだ中高域再生を実現するΦ8.5mmドライバーユニット

Pro Voice

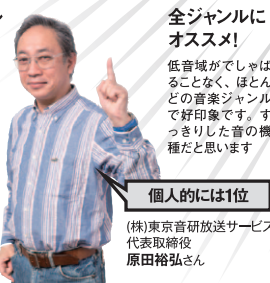


高ポテンシャルな一品です

ただ「音」が「聴こえる」だけではなく「音楽」を「感じられる」良品。製品作成に対する妥協のなさを感じます

個人的には1位

サウンドプロデューサー
大澤大輔さん



全ジャンルにオススメ!

低音域がでしゃばることなく、ほとんどの音楽ジャンルで好印象です。すっきりした音の機種だと思います

個人的には1位

(株)東京音研放送サービス
代表取締役
原田裕弘さん

識者絶賛の
No.1イヤホン!

超掘り出しものの発見!

迷ったらまずコレ!

1位

総合
1位

ゼロオーディオ
ZH-DX210-CB

SPEC:ドライバーユニット:Φ8.5mm / 再生周波数帯域:6 ~ 24,000Hz / インピーダンス:16Ω / コード長:1.2m

バランス型

カナル型

カラー1色

music match

POP
ROCK
JAZZ



識者eye

サウンドプロデューサー
大澤大輔さん

高クオリティ・高コストから
メーカーの熱意が伝わってくる!

ゼロオーディオの開発部の熱意がみなぎる逸品。良い製品をつくるには開発プロジェクト・チームのマネジメント能力が問われるが、この会社の製品からはそのチーム力の高さが存分にうかがえる。すべてのモデルに共通していることだが、高域と低域を聴こえやすいように多少強調して調整している。本製品で特筆すべきはその調整センスの良さ。低音から高音まで全帯域でよく聴くことができるチューニングの良さがゼロオーディオ製品が持つバランス力の高さの秘訣だろう。そして、これほどのクオリティをもつ製品が5000円以下で購入できることに、プロが手がけるモノづくりへのこだわりを感じる……つまりバツバツ。識者からは感嘆の声が聞かれた。何はともあれまずはこのイヤホンだ。

Pro Voice

安定感があり
パワフル!

高音域&低音域をデフォルメした、コントラスト高めな音質。カーボン外見同様やや硬質（ハード）な印象です

個人的には3位

(株)東京音研放送サービス
サウンドミキサー
井川崇さん

チューニングの
良さを感じる

本機は低音にフォーカスを当てている感じがします。ボディやドライバーユニットなどが上手に調整されています

個人的には7位

音楽・オーディオ評論家
中林直樹さん

この凄さを体験
してほしい

脱帽です。「5000円以下の価格でここまでやるか!」と驚きを感じました。音楽をもっと好きになれる逸品です

個人的には6位

ピアニスト・作曲作曲家
扇谷研人さん

ジャンルを問わず
楽しめます

音が全体的にスッキリしている印象で聴きやすいです。個人的にはもう少しパンチが効いていたらほうが好きですね

個人的には12位

音楽ライター
阿刀大志さん

「ボディは軽量・高強度で制振性に優れたカーボン・ファイバーと削り出しアルミニウムで複合強化を行い、不要な共振振動を抑制しドライバーの性能を最大限に引き出す。そのため音の立ち上がりはすば抜けて早い。ロックでのドラムやベースがぐいぐいと耳の奥に迫ってくるのを実感できるだろう。『安くて良いイヤホン』と思う人は、まずゼロオーディオを選んでください。」

の強い圧力に余裕をもたせて聴かせる懐の深さが必要。ハウジングの中でドライバーが電気信号によって振動し音に変わる構造上、物理的にそれを完全に再現できる単一の機構は、どんなに高い価格の業務用でも存在しないんです。だからこそ、そのバランスを整えるための調整（チューニング）がとても重要になってくるのですが、このイヤホンはその部分に時間をかけてじっくり取り組んで作成している結果、完成度が高いんだと思います。」

また、さまざまな低音の音色を聴き分けられるのも魅力のひとつといえる。テスト曲を用意したサウンドプロデューサー大澤大輔さんのコメントが興味深い。「ひと口に低音といっても、スネアドラムのインパクトの部分、キックドラムの振動の部分、ベースのレゾナンス（共鳴）の部分など、何層にも分かれていて音楽ソースごとにその密度が違うんです。だからその複雑な動きに対応できる機敏な動きと、そ

音のプロフェッショナルたちが本気で選んだイヤホンランキング、総合点で1位となったのはZH-DX210-CB（ゼロオーディオ）だ。テストの途中、識者の会話のなかで「すば抜けて良いのがある!」と結果が出る前から高いポテンシャルで存在感を放っていたこのイヤホン。ポイントは、バランスの良さ。にある。テスト項目にある点数はすべてて及第点。好みを越えた良さが万人向けといえるだろう。音の評価ポイントとなる「低音」「中音の解像度」「高音」に関して、識者から「周波数・解像度が◎」「高音が強く出る」「音の強弱がよく聴きとれる」など絶賛の嵐だった。これだけの高評価を勝ち取った「ZH-DX210-CB」が、2万円クラスと同等のイヤホンと称されるのも納得がいく。

シャープでスピード感あるU5千円ベストイヤホン